

「好きかも ウクレレ」

— 小学部 音楽 器楽 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

本分教室の小学部の音楽は、(1. 2年)、(3. 4年)、(5年)、(6年)の4展開で授業を行っている。今年度から音楽科教員2名で授業を担当しており、児童のより深い学びをめざして、日々アイデアを出し合いながら実践している。

本分教室には、キーボード、ギター、ウクレレ、箏、電子ドラム、トーンチャイム、小物打楽器など数多くの楽器があり、児童は在籍している間、いろいろな楽器を体験することができる。児童に一番人気があるのはキーボードで、全部で7台あるので大体は一人1台でじっくり練習することができる。鍵盤を押せばすぐに音が出る手軽さや、ボタン1つでいろいろな音色やリズムを体験できる面白さが人気の理由と思われる。

しかしながら、全ての児童がキーボードに興味があるというわけではなく、なかには手先が不器用で苦手意識をもっていたり、一定期間を過ぎると飽きてしまっていて継続が難しかったりする児童もいる。そこで、他にも取り組みやすい楽器を検討し、ウクレレを授業に導入することにした。本実践は、今年度小学部6年で行ったものである。

2 教材について

ウクレレは、ギターによく似た小型の弦楽器で、4本のナイロン弦が張られている。ギターに比べて小ぶりなので抱えやすく、ネックも細いので弾きやすい。陽気で軽快な音色が特徴で、その場をゆったりとした雰囲気に変える癒しの楽器として人気が高い。指1本で押さえられる簡単なコードもあり、器用さに左右されることなく誰もが取り組みやすい楽器である。

3 授業の展開

(1) ステップ1～ウクレレのことはじめ～

学習内容 ウクレレの構え方、弦とフレットの場所、左手の弦の押さえ方、右手の弦のはじき方等を説明と手本を交えながら実際に音を出しながら覚える。

指導上の工夫 「1フレットの2弦を押さえてみよう」という風にクイズ形式にすることで、自然とウクレレの構造を理解できるようにした。

(2) ステップ2～基本コードの練習～

学習内容 指1本で押さえられるC(赤色)、指2本で押さえるF(緑色)、指3本で押さえるG7(青色)の3つのコードの習得をめざす。

指導上の工夫 あらかじめ押さえる位置に色分けしたシールを貼っておき、児童はシールを目安に弦を押さえて音を出す練習を行った。

(3) ステップ3～弾き歌い～

学習内容 曲に合わせてコードを鳴らす。慣れたら歌いながら弾く「弾き語り」をする。授業では次のような曲に取り組んだ。

I 実践報告

- ・ Cで弾ける曲…かえるの歌、グーチョキパーでなにつくろう
 - ・ C、G7で弾ける曲…メリーさんのひつじ、十人のインディアン
 - ・ C、F、G7で弾ける曲…きらきらぼし、ハッピーバースデー、チューリップ
ジングルベル、きよしこのよる
 - ・ C、F、G7、Amで弾ける曲…おどるポンポコリン、やさしさに包まれたなら
ルージュの伝言
- その他のコードを含む曲…さんぽ、風になる、リメンバーミー、となりのトトロ
君をのせて、もののけ姫 等

指導上の工夫

取り組みやすい親しみのある曲や耳になじんでいる曲を選曲した。演奏前に歌ってメロディーや曲想をつかみ、スムーズに演奏に移行できるようにした。楽器同様、楽譜にも色分けをして、どのコードを弾いたらよいのか視覚的に分かるようにした。また、全てのコードをいきなり弾くのではなく、まずは1つのコードを担当して弾き、あとのコードは教員が弾くというように分担して演奏することで、1つの曲を仕上げるという達成感を持ち、次への意欲につなげた。

(4)鑑賞

ウクレレ演奏を動画で鑑賞し、実際の奏法や音色、表現方法を感じ取る。好きな曲の演奏を聴くことで自分も弾いてみたいという意欲の向上につなげることをねらいとした。

4 児童の様子・変化

6年生のある児童は、自信のなさや照れから歌唱教材は聴くことはできても、声に出して歌うことはなかった。しかし、ウクレレを弾いているときは、自然と口ずさんだり、身体でリズムをとったりと、心から音楽を楽しんでいる様子が伝わってきた。1つの曲を最後まで弾けるようになると、少し難易度が上がった違う曲に挑戦するなど、普段は失敗を恐れがちな児童も、小さな自信を積み重ねることで未知のことに意欲的に取り組もうとする様子がみられた。さらに、ウクレレをはじめて半年ぐらい経ったころ、「打楽器も何かやってみようかな」と他の楽器にも興味を示しはじめ、それまで限られていた興味関心が広がり、気持ちが少し柔軟になっていることを感じた。この児童に限らず、他の児童や中学生も、一度ウクレレの弾き方のコツを理解すると、集中して取り組み、練習しただけでどんどん上達していく姿が多く見られた。

5 まとめ

本分教室の児童は、不器用さやこれまでの失敗体験から、表現することへの抵抗が強いと感じることが多い。しかし、スモールステップで丁寧に取り組み、その都度励ますことによっては、楽器や音楽を楽しみ、子どもらしい無邪気な表情や真剣に取り組む姿などたくさんの表現を引き出すことができると分かった。このような点からも子どもたちがウクレレを学ぶことは、多くのメリットがあると感じている。一般の小学校でウクレレを学習することは難しいが、ここで熱中して取り組んだ経験は、今後の豊かな音楽体験につながると感じている。さらに、生涯にわたって音楽を生活の中に取り入れて楽しく過ごしてほしいと願っている。